「わがまち点検」を子どもたちの手で

（趣旨）

東北大震災後、「安全」の観点から改めてわがまち、わが暮らしを見つめ直した人は多いと思いますが、本気になって改善につなげようとした人はそのうち何人になるだろうかという思いがしています。わたしがかかわる福祉施設でも高台に建て替えまではやらないにしても、情報の収集、連絡体制、具体的な避難、その後のケアなど、マニュアルを改めて点検し、いざというときの備えをし直しました。大事なのは、その際、想定外を想定しておくことが必要と改めて感じました。「そこまでは」という意見も確かにありましたが、議論しておけば頭の片隅にでも対応のイメージが残るというものです。そのことが後になって効いてくると思ったのです。その体験からひとつの提案をしたいと思います。

（提案）

子どもの教育課程、あるいは課外授業として「わがまち点検」ができないかということです。子の場合の子どもは小学生を指し、わがまちとは小学校区を指すと理解いただきたいと思います。子どもたちがまちを知り、安全安心を点検するのは社会勉強としても意義が大きいと思いますし、将来、まちづくりの有力な人材に育ってくれるような期待を抱かせてくれると思います。点検の内容は次の通りです。

点検１：危険箇所発見

いつもの通学や公園への道、遊び場のほか、倒れやすいものなどを点検項目とし危険がないかを点検します。具体的には、自販機、ブロック塀、水路、河川の堤防、橋、大型車が頻繁に出入りする街角、自転車がスピードを出して行き来する歩道などがチェック対象です。現在の状態を把握し、危険度についてその箇所ごとに５段階評価するのです。

点検２：まちの再発見

まちにとって大切にしているもの、いざというときの避難所になりそうなところ、などを点検項目とし、普段はどういう状態になっているかを点検します。具体的には、公民館、神社、お寺などのほか、まちの集会所、福祉施設、商店、工場などです。現在の状態を把握し、危険度のほか、いざというときにどういう形で安全を確保するのか、避難所としての利用が可能かなどを５段階評価するのです。

点検３：模擬避難訓練

地震や火災などが伝えられたらまず何をしたか、言われている通り、あるいは指示に従ってきちんと行動がとれたのか、自分を見失うようなことはなかったか、などを点検項目の中心としますが、避難路の状況はどうであったか、歩道に乗り上げた車があるな

ど障害物はなかったか、歩道を走る自転車によるとまどいなどなかったか、避難に関する標識は目立つところに設置されているか、広域避難所の状況はどうであったかなどを含めて、訓練を通じてどの程度できたのか、避難環境はどうであったかなどを総合点検します。まごついた、すすんで行動ができたなど、項目ごとに５段階で自己評価するのです。

点検４：過去の災害被害

地震や津波などによってわがまちにおいて過去にどういう災害があったのかを調査し、それらと比較考量して現在の状況から見たわがまちの危険度を点検します。

例えば、神奈川でも海岸から２キロも内陸にある鎌倉の大仏まで津波が押し寄せた過去があります。現在その規模のものが来たらどうなるのか、被害は、備えは、どう避難すればいいのかなどを点検して５段階で評価するのです。

過去の災害データについては役所に記録が残っているはずですし、その様子などをまちの古老に聞くなどして補充するのです。実際に現地を歩いてみてもよいでしょう。

以上４項目の点検が終わりましたら、次に採点と全体の中での順位づけ、そして公表という順序で進んでいきます。

「わがまち点検」は小学６年間のうち、一度やればよいかと思います。４年生か５年生くらいがどうかと思います。

学年公表会を父兄や町内会自治会参観のもとに実施したらよいと思います。採点結果の良し悪しのほか、まとめたことから出てくる現状への指摘面も当然でてきます。指摘が妥当と思われれば、参観の当事者らが持ち帰って改善につなげていければよいと思います。

子どもたち自身にとってもためになる「わがまち点検」ですが、改善につながっていけば子どもたちの目線から見たひとつのまちづくりの手法の提供ということになるのではないかと思います。